

宮島資夫 みやしま ともお 小説家。明治十九年八月一日東京生れ、昭和二十六年二月十九日歿（八六六一九五）。本名信泰。法名慈範、號蓬州、筆名宮嶋信泰、宮嶋蓬洲、宮嶋資夫、戸山八郎等。十餘の職を轉ぐことし、大正二年大杉榮のサンジカリズム研究会に参加。十年高尾平共黨、後藤謙太郎等と労働社を興して機関誌『労働者』を、更に十四年新居格等と『文藝批評』を、昭和二年には小川未明等と『矛盾』を發刊し、五年佛門に入る。

著譯書 『抗夫』（宮嶋資夫名、大正五年一月五日自刊、近代思想社發賣）、『恨なき殺人』（大正九年七月一日聚英閣『社會文藝叢書』）、『第四階級の文學』（大正十一年二月十八日下出書店）、『大の死』

で』（大正十一年五月十五日下出書店）、『裸像彫刻—宮嶋資夫自敘傳—』（大正十一年十一月十五日春秋社）、『流轉』（大正十一年十月

月二十日新潮社『新進作家叢書』）、『黄金地獄』（大正十二年五月二十日萬有社）、『憎しみの後』（大正十二年七月一日 大版毎日新 東京日日新

聞社）、『少年の頃・中巻』（合著・小野誠悟編、大正十四年五月一

十日第一出版協會『少年少女文藝叢書』）、サンライ・フヤブル著

『田園の悪戯者』（譯、昭和二年一月一日ヤルス・フヤブル科學知識

叢書）、再刊・五年二月三日「フヤブル科學知識全集」）、『佛門に

入りて』（宮嶋蓬州名、昭和五年十二月十日創元社）、『續篇・禪の

生くる』（昭和八年十一月十八日大雄閣）、『黄金曼陀羅』（昭和九

年五月十八日大雄閣）、『華嚴經』（宮嶋資夫名、

昭和十年二月二十日大東出版社『佛敎聖典と語る叢

書』）、『新篇禪の生くる』（宮嶋蓬州名、昭和十六



年一月二十日大法輪閣)、
 『大い』と『童詩集』(宮嶋蓬洲名、昭和十
 六年八月二十日金の星社)、
 『空禪への道』(宮嶋蓬洲名、昭和十八
 年一月二十日福書店)、
 『尊徳譚』鈴木共二(同、昭和十八年十一月二十日
 月二十日大法輪閣)、
 『遍歴』(宮嶋資夫名、昭和二十八年八月二十日
 日宮嶋秀刊、慶友社)等。